

いちまるいち

天王寺動物園 101 計画

～おもしろい・あきない・みんなの動物園をめざして～



てんのうじどうぶつえん

平成 28 年 10 月

大阪市

天王寺動物園

目 次

I	天王寺動物園 101 計画策定の経緯	1- 1
II	天王寺動物園 101 計画の基本コンセプト	2- 1
III	天王寺動物園基本構想における動物園の使命等の整理	3- 1
1	動物園の使命	3- 1
2	動物園が果たすべき機能・役割	3- 1
2-1	基本構想における整理	3- 1
2-2	各機能間の関係についての補足	3- 3
3	市民の意見を踏まえた将来の動物園像	3- 4
4	天王寺動物園の顧客ターゲット	3- 5
IV	活性化計画	4- 1
1	魅力的な動物園に向けて ～活性化計画の基本方針～	4- 1
2	魅力あるコンテンツの開発とその発信	4- 2
2-1	メインコンテンツである動物展示の強化	4- 2
2-2	魅力的なイベント企画づくり	4- 6
2-3	広報・プロモーション	4- 7
3	顧客視点からの魅力向上策の展開	4- 8
3-1	ワクワク感を持った空間の提供	4- 8
3-2	来園者の快適さの向上	4- 9
3-3	魅力的な飲食物販サービス	4-10
3-4	何度も来場できる仕掛け（パスポート）	4-11
3-5	CS（顧客満足度）向上のための改善活動の推進	4-12
3-6	天王寺・阿倍野・新世界エリアと連動した魅力向上	4-13
3-7	インバウンド対応	4-14
4	外部との連携・協働による動物園の活性化	4-15
4-1	ボランティア・NPOとの協働	4-15
4-2	個人からの寄付	4-17
4-3	企業からの寄付・スポンサード	4-18
V	機能向上計画	5- 1
1	持続可能な動物園の機能向上に向けて～機能向上計画の基本方針～	5- 1
2	飼育管理機能の向上	5- 3
2-1	動物飼育管理技術の向上	5- 3
2-2	飼育個体の維持・確保	5- 4
2-3	動物福祉の向上	5- 5
2-4	生物多様性の保全	5- 6
3	社会教育機能の向上	5- 7
3-1	楽しみながら学ぶ ～環境教育、命の教育～	5- 7
3-2	学校教育との連携	5- 9
4	調査研究機能の向上	5-10
4-1	大学等の研究機関等との連携	5-10
4-2	動物園独自の調査研究機能の向上	5-11
VI	施設整備計画	6- 1
1	整備の考え方	6- 1
2	前提条件の設定	6- 6
3	テーマ区分及び新たな計画エリア等の設定	6- 7
4	ゾーニング	6- 8

5	動線	6-12
6	新施設整備プロジェクト -展示・空間ハイライト-	6-14
7	各種便益・サービス施設 他	6-33
8	年次計画と総事業費	6-38
VII	経営計画	7- 1
1	収支に係る現状と課題	7- 1
2	計画目標達成のための対応方針(収支改善施策)	7- 3
3	施設整備にかかる市税負担低減について	7- 4
4	望ましい組織体制と経営形態	7- 5
VIII	計画推進のために	8- 1
参考 1	動物園の現況	9- 1
1	入園者数	9- 1
2	収支	9- 3
3	公費負担率の推移	9- 5
4	職員構成	9- 6
5	飼育動物関係	9- 6
6	教育普及活動	9- 6
7	来園者データ	9- 7
7-1	国内来園者	9- 7
7-2	インバウンド	9-11
8	経営形態	9-12
参考 2	用語解説	9-13

※一般的でない用語について、巻末に解説を記載しています。

I. 天王寺動物園 101 計画策定の経緯

天王寺動物園は、大正 4 (1915) 年に開園し、100 年を越える日本で 3 番目に長い歴史を有した動物園です。開園以降、施設整備や希少動物の入手を進め、規模の拡大を図ってきました。

昭和 36 (1961) 年からの動物園改造 9 ヶ年計画により、無柵放養式を中心とした動物舎への改築などの整備を行いました。また、昭和 45 (1970) 年に開催された日本万国博覧会を記念して、各国からアジアゾウやキーウイ等の親善動物が贈られ、飼育動物種を一段と充実させることができました。さらに、昭和 62 (1987) 年に天王寺公園で開催された天王寺博覧会に併せて園内を改修し、鳥の楽園やガラス張りのヒョウ舎等の建設を行ったほか、平成元 (1989) 年にはコアラ館を、平成 4 (1992) 年にはチンパンジー・オランウータン舎を完成させました。

その後は、平成 7 (1995) 年度に策定した「ZOO21 計画」に基づき、野生の動植物が生息する環境をできるだけ再現する「生態的展示」を取り入れた動物舎への転換を進め、平成 7 (1995) 年に爬虫類生態館アイファー、平成 9 (1997) 年にカバ舎、平成 10 (1998) 年にサイ舎、平成 12 (2000) 年にアフリカサバンナゾーン草食動物エリア、平成 16 (2004) 年にアジアの熱帯雨林ゾーン・ゾウ舎、平成 18 (2006) 年にはアフリカサバンナゾーン肉食動物エリアを完成させました。

しかし、近年は、大阪市の財政難などもあって、「ZOO21 計画」に基づく整備は停滞してきました。また、来園者数も減少傾向になり、平成 25 (2013) 年度には約 116 万人という、平成に入ってから最低の来園者数を記録しました。このように動物園事業が行き詰まりつつある中、大都市大阪にふさわしい魅力あふれる動物園を目指して、徹底した改革が求められてきたところです。

今後とも動物園を改革し、動物園としての機能向上や来園者サービスなどの改善の取り組みを継続的に実施していくためには、天王寺動物園の中長期の方針を定めておく必要があります。そこで、策定から 20 年が経過した「ZOO21 計画」をリセットし、これに替わる新たな計画を策定するため、平成 27 (2015) 年 8 月に、動物園の今後の方向性等について定めた「天王寺動物園基本構想」を策定しました。そして、この基本構想を実現するために必要な具体的な方策を取りまとめたのが、この「天王寺動物園 101 計画」です。



昭和初期の動物園



アフリカサバンナゾーン

Ⅱ. 天王寺動物園 101 計画の基本コンセプト

大阪の地で 100 年にわたって愛されてきた天王寺動物園が 101 年目に策定する計画として、以下のキャッチフレーズと基本コンセプトに沿って進め、公立動物園としての機能・役割を果たしていけるよう、次の 100 年に向けて頑張っていきます。

(キャッチフレーズ)

(いちまるいち)
『天王寺動物園 101 計画』
～おもしろい・あきない・みんなの動物園をめざして～

本計画は、天王寺動物園が 101 年目に策定する計画であることから、『天王寺動物園 101 計画』と称することとします。

また、昨年基本構想を取りまとめる際に公募によって集まっていた約 40 名から成る「Z00 friends 会議」において提案されたキーワードなども引用し、目指すべき将来像を表す副題を「おもしろい・あきない・みんなの動物園をめざして」としました。

「おもしろい」には、“大阪らしい笑いのあふれる”という意味のほか、“興味深い”、“知的好奇心を刺激する”場にもなる、という意味を込めました。また、「あきない」には、“商い＝商売上手な”から転じて、“経営にも配慮した”という意味と、何度訪れても“飽きない”いつでも魅力あふれる動物園を目指す、という思いを、最後に、「みんなの」には、“これからも市民のみなさまのための動物園”であるとともに、“今後は、市民のみなさまと共に歩いていける動物園”でありたいという意味を込めて副題を上記のとおりとしました。

(基本コンセプト)

- 大都市大阪にふさわしい都市型動物園
- 憩い・学び・楽しめる都心のオアシス
- 動物本来の行動を引き出す「進化型生態的展示」

キャッチフレーズを具現化するため、上記の 3 点を基本コンセプトとして設定します。

コンセプトの 1 点目は、天王寺動物園が大阪の観光戦略のひとつの核としてどうあるべきか、2 点目は、天王寺動物園を訪れる人にとってどういった存在であるべきか、3 点目は、動物園の根本要素としてどのような動物展示を目指すのか、をそれぞれ天王寺動物園の特性を考慮したうえで設定しました。

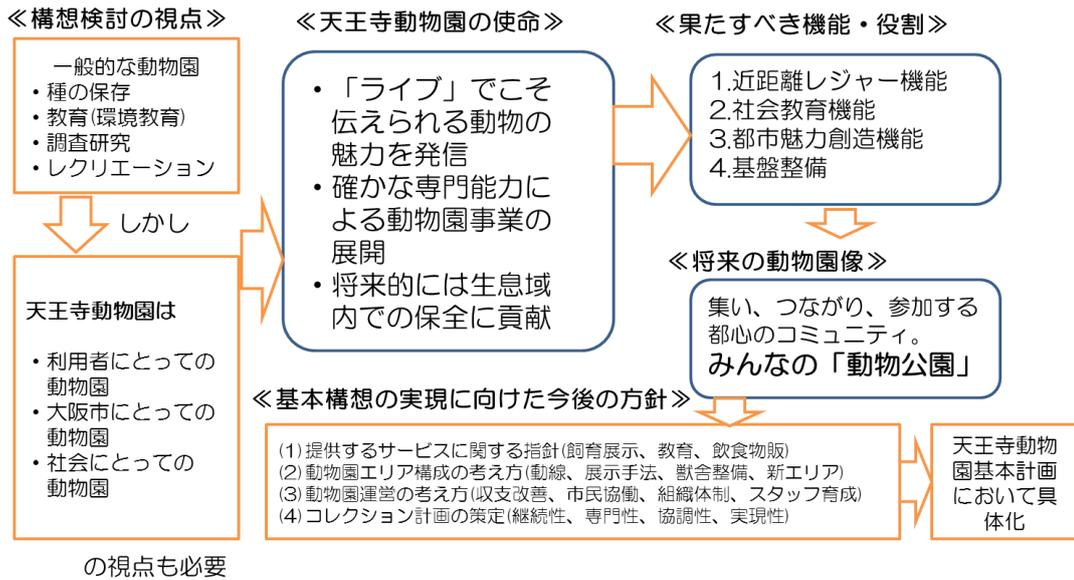
これらのコンセプトと、基本構想で整理した動物園の使命等を踏まえて、各計画（活性化計画、機能向上計画、施設整備計画、経営計画）を構成しています。

Ⅲ 天王寺動物園基本構想における動物園の使命等の整理

1. 動物園の使命

天王寺動物園を所管する大阪市建設局では、平成 27(2015)年 8 月に「天王寺動物園の今後の方向性（天王寺動物園基本構想）」（以下、「基本構想」とする。）を取りまとめました。（図 1）

図 1：基本構想の構成



基本構想においては、天王寺の動物園の意義や役割について、「利用者にとっての動物園」「大阪市にとっての動物園」「社会にとっての動物園」という 3 つの視点から考察を行い、天王寺動物園の使命として以下の 3 点に整理しました。

使命 1：お客様に対して、「ライブ」でこそ伝えられる動物の魅力を発信し、楽しみながら野生動物や家畜などの動物についての理解や自然環境や生物の多様性への気づきを与える。

使命 2：確かな専門能力に基づき、種の保存にも貢献しつつ、持続可能なかたちで動物園事業を展開する。

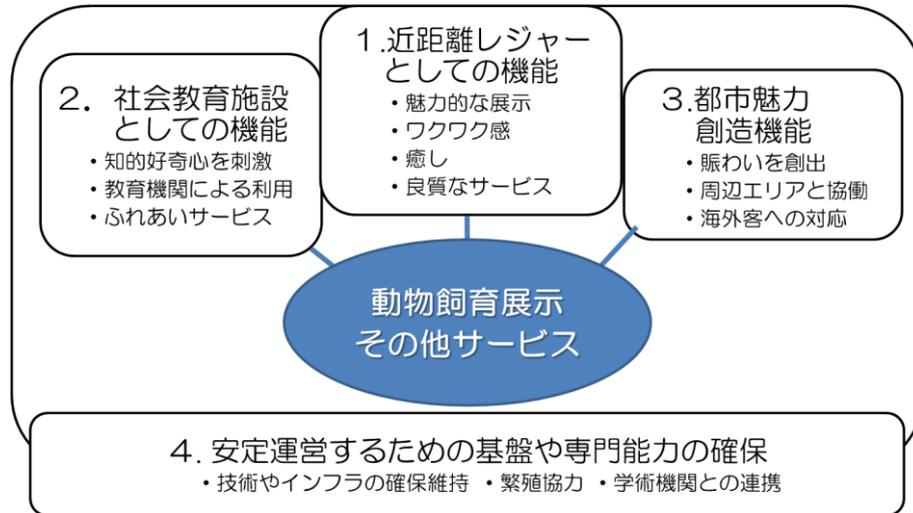
使命 3：将来的には、野生生物の生息域内での保全にも貢献する。

2. 動物園が果たすべき機能・役割

2-1 基本構想における整理

基本構想においては、上記の使命の整理を踏まえて、天王寺動物園が果たすべき機能・役割として、「近距離レジャー機能」「社会教育機能」「都市魅力創造機能」の 3 点に整理するとともに、これらの機能・役割を果たすため必要な「基盤整備」を 4 点目として位置付けました。（図 2）

図2.天王寺動物園の果たすべき機能・役割



(1) 近距離レジャー機能

お手軽に行ける近距離レジャーとして、お客様に大切な人との思い出を紡ぐ機会を提供する。

(実施すべき事項)

- ・驚きを与えるような魅力的で満足度の高い動物展示を提供
- ・体験・体感できる活動を提供
- ・ワクワク感のある快適な園内空間を提供
- ・都心の緑地として「癒し」のスペースを提供
- ・お客様ニーズに応える良質な物販飲食等のサービスを提供
- ・ホスピタリティの高い接遇を提供（委託先による接遇を含む） など

(2) 社会教育機能

ライブの動物や、リアルな体験・体感を通じて、自然や動物への理解や共感の機会を提供する。

(実施すべき事項)

- ・レジャー目的のユーザーに対しても、動物園としてのメッセージを発信
- ・メッセージの発信に当たっては、野生動物と家畜は峻別して発信する。
- ・ふれあいサービスの拡充強化
- ・教育機関による利用ニーズに対応
- ・知的好奇心を刺激し、知的な愉みを提供 など

(3) 都市魅力創造機能

賑わいは賑わいを呼び、それが都市全体の魅力向上と活性化につながることから、動物園に賑わいを呼び込み、天王寺周辺のエリア全体を活性化する。

(実施すべき事項)

- ・ 利便性の高い立地を活かして、周辺エリアの各主体と協働しつつ、動物園とその周辺に賑わいを創出
- ・ 海外からの来園者への対応の充実（多言語化、日本産動物の展示の強化など）など

(4) 基盤整備

魅力的な動物園を提供し続けるための基盤や能力を確保・維持する。(注:「種の保存」に関する活動は、本項目に含まれる。)

(実施すべき事項)

- ・ 飼育、繁殖、獣医療等の技術やインフラの確保・維持
- ・ 飼育動物の安定的な確保（動物園間の繁殖協力など）
- ・ 他園の先進的な取り組みや野生の生息地の状況等を把握し、園内での活動の改善にフィードバック
- ・ 学術機関との連携などによる専門能力向上 など

2-2 各機能間の関係についての補足

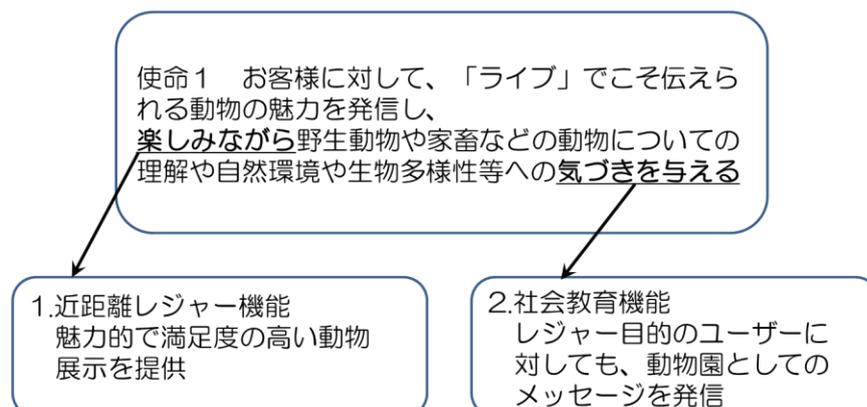
基本構想では、上記の整理について、「天王寺動物園においては、以上の4つの機能をバランスよく運営するものとする。」としています。

特に、動物園の運営に当たっては、商業的な機能である「近距離レジャー機能」と公的な機能である「社会教育機能」とのバランスが重要となります。どちらかにだけ偏った運営となるのは適切ではないと考えられます。

基本構想では、使命1として「(略) 楽しみながら (中略) 気づきを与える」と整理したところですが、これを動物園の活動に落とし込むと、近距離レジャー機能を満たす活動をしっかり実施して多くのお客様に来園して楽しんでいただくとともに、併せて、社会教育機能を満たす活動として、レジャー目的で来園されたお客様にも伝わるように、生物多様性の保全等に関する教育的なメッセージを発信していくことが重要となります。

(図3)

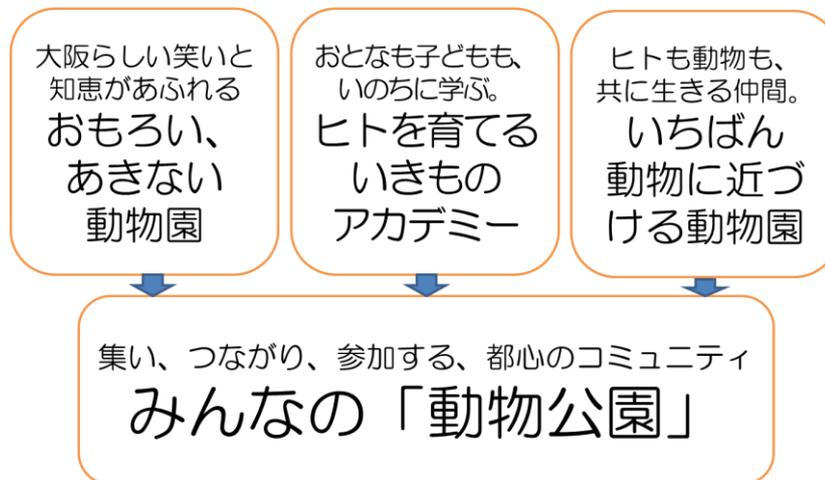
図3 基本構想における「使命」と「機能」との関係



3. 市民の意見を踏まえた将来の動物園像

基本構想においては、ゾーフレンズ会議の議論及び上記の動物園の使命や役割を踏まえて、天王寺動物園が目指す将来像を次の4点にとりまとめました。(図4)

図4：将来の動物園像



- (1) 集い、つながり、参加する、都心のコミュニティ。みんなの「動物公園」
- ・お昼休みにホッと癒されに来る。
 - ・学校や仕事帰りに立ち寄れば、よく知るあの人にもここで会える。
 - ・動物をきっかけに、見知らぬ人同士もつながり合える。
 - ・都会のど真ん中にある動物園だからこそ、特別な場所でなく、もっと日常の中にある場所へ。
- (2) 大阪らしい笑いと知恵があふれる、おもろい、あきない動物園
- ・動物園の元気は、大阪の元気だから。
 - ・子どもからお年寄りまでみんなで盛り上がる、大阪らしいユニークなアイデアをどんどんカタチに。
 - ・笑い声が絶えない、いつも大繁盛の動物園へ。
- (3) おとなも子どもも、いのちに学ぶ。ヒトを育てるいきものアカデミー
- ・いのちの尊さ、やさしい心、やり遂げる喜び。
 - ・生き物を通じて、楽しみながら、生きて行く上で本当に大切なことを教えてくれる。
 - ・動物を育てるだけでなく、ヒトも育てる動物園へ。
- (4) ヒトも動物も、共に生きる仲間。いちばん動物に近づける動物園
- ・動物の生活にもっとリアルに触れることで、動物の感じていることまで見えてくる。
 - ・動物と人間は、もっと分かりあえる。
 - ・地球で生まれた同じ仲間として、共に生きていく動物園へ。

4. 天王寺動物園の顧客ターゲット

基本構想においては、2種類の顧客ターゲットを設定しています。

現在の動物園利用者の大多数は、ファミリー層を中心とした日帰り圏内の住民であり、基本構想ではこれをメインの顧客層として位置付けています。ファミリー、カップル、友人同士での来園スタイルが想定され、リピーターの確保を目指していくこととなります。

一方で、少子化が進む中、子ども中心としたファミリー層を対象としたビジネスは先行きが厳しいこともあり、伸びしろのある顧客層として、外国人を含む遠方からの観光客層を今後開拓すべきターゲットと位置付けています。